

教育プログラム・コースの概要

大学名等	岐阜大学大学院医学系研究科医科学専攻						
教育プログラム・コース名	次世代がん医療コース（大学院正規課程）						
対象職種・分野	医師、歯科医師、薬剤師						
修業年限（期間）	総合医学専攻博士課程 4年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院課程で放射線治療、核医学治療、神経ブロック、病理診断等を学び、学位取得後は地域に定着して多職種連携による集学的な治療・ケアなど、QOL向上や終末期医療を担う放射線治療医、麻酔科医、病理診断医。 ・大学院で臨床腫瘍学を系統的に学び、学位取得後は腫瘍循環器学、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学等の学際領域に対応できる医師、薬剤師。 						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・専門科目14単位（下記）、自由選択科目6単位以上を取得する。 ・特別研究6単位を取得する。 ・上記の合計30単位を取得し、学位審査に合格すること。 						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> ・専門科目：放射線医学、麻酔科・疼痛医学、腫瘍病理学、がん関連学際的領域（循環器腫瘍学、腫瘍腎臓病学、精神腫瘍学、老年腫瘍学等）及び頭頸部癌や皮膚癌等の希少癌の治療を行う分野を含め、がん治療を学び研究する科目より選択 ・次世代がん医療特論 15講義のうち10回以上を必須 ・次世代がん医療実習 2コース以上履修を必須 						
がんに関する専門資格との連携	放射線治療専門医（日本放射線腫瘍学会・医学放射線学会）、認定病理専門医（日本病理学会）、ペインクリニック専門医（日本ペインクリニック学会）、がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代がん医療特論及び次世代がん医療実習は正規の大学院科目である。 ・本コースで新たに設置する次世代がん医療特論は、東海国立大学機構として法人統合している名古屋大学で実施される特徴あるプログラム「次世代がん医療」コースと連携しつつ、岐阜県がん・生殖医療ネットワークを活用した妊孕性温存などライフステージ特にAYA世代のがんがハイパーの高度な教育を取り入れるなど、岐阜大学の強みを生かして独自に拡充する。 ・本コースで新たに設置する次世代がん医療実習は、同じ機構である名古屋大学で実施される基盤医科学実習ベーシックトレーニングと連携しつつ、ペインクリニック（在籍専門医5名）、放射線治療（同3名）、分子病理診断（同7名）に関する実技又は研究手法のコースを追加するなど、岐阜大学の強みである分野を発展拡充する。 ・従来は放射線治療医、神経ブロックを行う麻酔科医、病理診断医を学ぶ学生はがん治療学に強く関心を示すが従来は自習以外で系統的に学ぶことは困難であった。本コースによってがん治療学を系統的に学修できるようになる。 ・岐阜大と名古屋大が連携して実施しているポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業「医療人類学とバーチャル教育を活用した屋根瓦式地域医療教育（濃尾+A）」で行う地域に貢献する医師養成の教育ノウハウを有機的に共用する。 						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・主専攻科目の担当教員、本事業の担当教員ならびに本事業で雇用する特任教員、学外招聘教員によるオムニバス講義及び実習を行う。 ・本事業に特化した履修記録管理システム（電子ポートフォリオ）を用いて学習記録を蓄積し、他の学生や指導教員と地理的条件を超えてその学びを共有する。 						
修了者の進路・キャリアパス	地域に定着して多職種連携によるがん医療を実践する医療人材。修了後も地域にいながら受講できる環境を整備する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		8	8	8	8	8	40
受入目標人数設定の考え方・根拠	岐阜県内のがん診療連携拠点病院は8か所あり、放射線治療、麻酔・疼痛、病理医を本プログラムで充足させるためには5年間で各分野毎年2名（5年間で3分野併せて合計30名）必要である。学際領域の受入れを見込み、本コース全体で毎年度8名を目標として設定。						